

宿の通信簿・壱岐・長崎・佐賀の巻

菅田一郎（RSKOB）

10月18日（日）から一週間、日本晴れの九州路へ足を伸ばした。
今回のお目当ては壱岐と長崎池島炭鉱である。

“一気に壱岐へと行きたい”ところだがどうしても立ち寄ってみたいところがあった。田川伊田駅途中下車。

① 田川市石炭・歴史博物館

新幹線を小倉で在来線のワンマンディーゼルカーに乗り換えて南へ約50分、筑豊炭田の田川伊田駅の近くにある博物館。

日本初ユネスコ世界遺産となった山本作兵衛コレクション所蔵の博物館である。運よく原画展が行われており、じっくり彼の偉業に接することが出来た。炭鉱労働者としての自らの体験をもとに筑豊のヤマの仕事と生活を描いた記録画のすばらしさに圧倒される。



旧三井田川鉱業所伊田坑煙突



山本作兵衛炭鉱記録画

壱岐に渡るフェリーの時間が10:00だったため、博多駅に隣接するJRのブラッサム博多中央に宿泊した。平成25年新設で朝食の美味さでも評判のホテルである。



博多ふ頭

宿のHP

<http://www.jrk-hotels.co.jp/Hakatachuo/index.php>

② 壱岐

「壱岐は何県？」とクイズの問題に出ることもある。

結びつきの強い福岡県？距離の近い佐賀県？答えは長崎県。

廃藩置県でこうなったが今でも福岡県に転県してほしいとの気持ちは島民に強い。

博多ふ頭からフェリーで2時間20分、人口2万8,000人余。

平坦な地形で農業が盛ん。歴史的には、古くから大陸文化の中継地として重要な役割を持っており、国特別史跡指定「原の辻遺跡」などの貴重な歴史遺産が数多く残されている。また、豊かな海の幸のほか、「壱岐牛」、麦焼酎発祥の地と言われる「壱岐焼酎」など食の魅力にもあふれている。



島のシンボル鬼凧（おんだこ）



イルカパーク



朝市のおばあさん



壱岐麦焼酎甕仕込み



猿岩



一支国博物館屋上



帰りのフェリー

フェリーは平日だったため、観光客は少なく数人の釣り人と一般の人だった。

快晴で海は穏やかに見えたが、玄界灘は大きなフェリーでも揺れ船内を歩くとふらつく。

島内定期観光バスで一支国博物館に立ち寄った。展示物より建物の奇抜さに度肝を抜かれる。30数億円かけた黒川紀章の作品で、曲線が多くメンテに苦勞するとか。カネの無駄づかいとの声もあった。

一支国博物館

<http://www.nagasaki-tabinet.com/guide/50085/>

③ 壱岐・平山旅館

島に温泉があるのは知っていたが、それほど食指が動かなかった。どうせ農漁村のおかみさんが片手間にやっている民宿程度だろうと高をくくっていた。温泉は湯ノ本温泉一か所、きちんとした湯宿は2軒程だが平山旅館には降参した。全8室の家族経営で、自家源泉100パーセントの掛け流し、源泉温度65度の赤い塩湯に時間を忘れる。これだけではない。自家栽培の有機野菜と新鮮な魚の朝・夕食で評判の宿でもある。

温かいものは温かく、冷たいものは冷たく。見た目も美しい料理がタイミングよく出てくる。全部は食べきれない。

朝食時には必ず客との会話をすることになっている女将と若女将。

島の活性化と有機野菜の普及、日本ミツバチの養蜂、梅の栽培などパワフルな女将との会話はここだけの魅力である。再訪したい宿である。連泊して、定期観光バスで島内めぐりを楽しんだ。

宿のHP

<http://www.iki.co.jp/>



平山旅館入口



自家源泉



内湯

④ 長崎・ふじわら旅館

壱岐から船で博多に戻り、特急かもめで長崎へ向かった。2時間弱の列車の旅である。長崎駅から歩いて8分、長崎市役所や長崎放送が近い鉄筋3階建て全5部屋の旅館である。

トリップアドバイザーの評価もハナマルである。

夫婦で経営しているが、特に愛想が良いわけでもないが温かい。

清潔で心配りも行き届いて田舎の家に帰った感じである。夕食はなし、主人が近くの食事処を紹介してくれる。

最近外国人客も多く、朝食時スイスから一か月の日本旅行を楽しんでいる老夫婦と一緒にあった。“Where are you from?”

連泊して池島炭鉱へ向かった。

宿のHPとトリップアドバイザーの評価

<http://www.fujiwara-ryokan.jp/>

http://www.tripadvisor.jp/Hotel_Review-g298568-d1087635-Reviews-Fujiwara_Ryokan-Nagasaki_Nagasaki_Prefecture_Kyushu_Okinawa.html

⑤ 池島炭鉱

池島については、ネットで調べるまでまったく知らなかった。

長崎からレンタカーで北へ海沿いを約1時間。大瀬戸港からフェリーで

30分池島港に着く。港で待ち構えていたガイドの案内で午前中はヘルメット装着で「坑内探検ツアー」と称してトロッコ列車で入坑する。ガイドは元炭鉱労働者で訛りはあるが実に臨場感がある説明をしてくれる。

昼食は希望者には当時をしのぶ炭鉱弁当が800円で提供される。アルミの弁当箱は持ち帰らないでと注意書きがある。

午後の部は別のガイドによる島内の立て坑など炭鉱施設や廃墟と化したつつある社宅を案内してくれる。島内歩数7,500歩。

閉山してまだ年月が経っていないため建物のいたみは激しくないが確実に急速に軍艦島化しつつある。

余談だが、港の近くに市営住宅があり160名余の人が住んでおり大半は年金生活者。築50年のおんぼろアパートで手入れナシ。家賃は1万円弱。島には立派な小中学校があり、中学校は生徒がいなくなり休校。小学校は学童1名に校長と教諭の2名。1名の生徒は午後のガイドのお孫さんだった。

島民より猫が多く我が物顔で逃げようもしない。最近では海を渡ってきたイノシシに悩まされている。

軍艦島

[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AB%AF%E5%B3%B6_\(%E9%95%B7%E5%B4%8E%E7%9C%8C\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AB%AF%E5%B3%B6_(%E9%95%B7%E5%B4%8E%E7%9C%8C))

池島のネット資料から

【池島は、長崎県西彼杵半島にある外海町の西7キロの海上、角力灘に浮かぶ、東西1.5キロ、南北1キロ、周囲4キロ、面積が約0.9平方キロの小さな島です。

この小さな島には、九州で最後まで残った炭鉱がありました。

池島炭鉱の営業出炭開始は昭和34年と、国内では最も新しい炭鉱といえるでしょう。石炭産業が、エネルギー革命の波にのまれ斜陽になっていくなか、池島炭鉱はその流れに逆らうように急速に成長しました。人口も、炭鉱ができる以前の昭和26年頃には350人程度でしたが、昭和46年には人口が7,500名以上に膨れ上がりました。

しかしながら、低価格の外国炭におされ、合理化による人員削減や、賃金カットなどで耐え忍びましたが、平成13年11月29日おしまれつつ閉山しました。

閉山にともない、島は人口の流出がおきて現在の人口は200名をきりま

した。】

池島炭鉱さるく

<http://www.saruku.info/course/G002.html>



島に渡るフェリー



池島全景



池島港



炭鉱弁当



ガイドの堀之内さん



斜坑



救急機器



エアマント



立て坑



坑内車両



無人のアパート



池島小中学校



8階建てアパート（無人）



我らが主役

⑥ 嬉野温泉・嬉泉館

長崎に戻り、特急ハウステンボスで武雄温泉駅へ、そこからJRバスで嬉野温泉へ30分の道のり。嬉野温泉は武雄温泉と並ぶ佐賀県を代表する温泉。ナトリウム炭酸水素塩泉で日本三大美肌の湯。

終点から徒歩3分で嬉泉館に着く。鉄筋3階建て8部屋のこじんまりした宿。二代目の女将がやさしく迎えてくれる。同宿の客と顔を合わすことがなかった。料理も小奇麗で器にもこだわっている。

なんといってもお湯がピカイチ。自家源泉の掛け流し、透き通ったお湯が浴槽に溢れ、ヌルヌル、つるつるなのはこれまで訪ねた全国数多の温泉の中で一番と言ってよい。四時過ぎ一人で浴していたら、老人が挨拶しながら入ってきた。「嬉野温泉ではこの湯が一番だ。長崎から10年ほど日帰り湯で通っている。昔内科医で軍艦島の診療所に通っていた」とめったに聞けない話に相槌を打った。そういえば数年前、廃墟の軍艦島を訪ねたとき（このころはまだあまり知られてなく、地元の漁船に内緒で頼んで渡してもらった非公式なものだった）

崩れかけた建物の間に入り込み、今思えば随分危険なところもあった。元医師の言う診療所で、放置されていたカルテを覗き込んだ記憶が後ろめたさともにはっきり残っている。

宿のHP

<http://kisenkan.spa-ureshino.com/>



嬉野温泉街



嬉泉館入口



透き通ったヌルツルの岩風呂

帰路

10月24日（土）博多経由、新幹線さくらで帰路についた。
今回の宿にはすべて満点☆☆☆☆☆をあげたい。（了）

※駄文お詫び、文字数多く目の悪い方には申し訳なく、読了して下さった方に感謝。